

「生語り」でおくる感動の影絵劇

「あらしのよるに」

～100万人が読んでいるオオカミとヤギの友情の物語～

原作／きむらゆういち（講談社刊）
第42回産経児童出版文化賞受賞
第26回講談社出版文化賞絵本賞受賞



こころ温まる「生語り」、物語を鮮やかに彩る「光」、全編をとおして流れる「音楽」、そして、命を吹き込まれた人形たちが、影と共に輝く迫力あるステージ。ちがった者同士が共に生きること、生きる力と勇気、友情の大切さなどを子どもたちに届けます。



～～あらすじ～～

あらしのよるに、白いヤギとするどいきばをもつオオカミが小さな小屋にかけこんできた。くらやみで相手の顔もわからずはなす二匹は、すっかり気があい、仲良くなってしまう。

「ひどいあらしで、さいあくのよるだとおもっていたんすけど、いいともだちにであって、こいつはさいこうのよるかもしんねえす。」

二匹はおたがいの顔もわからぬまま、もういちど会う約束をした。

あくる日は、ゆうべのあらしがうそのようなおだやかな午後だった。

「ハハハ、びっくりしましたよ。あなたがオオカミだったなんてね。」

「へへへ、おいらもですよ。あいてがヤギとはしらずに、はなしてたんすから。」

二匹は、たのしそうにわらいごえをたてた。

※一行人数 名～ 1ステージ90分（休憩約10分含）

※構成案：あらしのよるに（約60分）＋影絵教室（約20分）